

第4回「としま子ども会議」 実施報告書



令和5年度
豊島区

目次

1 概要	1
(1) 目的.....	1
(2) 対象者及び参加者.....	1
(3) 実施期間及び実施方法.....	2
(4) 実施内容.....	2
2 各回の実施内容	3
(1) 第1回（7月24日）.....	3
(2) 第2回（7月28日）.....	4
(3) 第3回（8月1日）.....	5
(4) リハーサル（8月19日）.....	6
3 意見発表会	7
(1) 開催概要.....	7
(2) 開会の挨拶・令和5年度「としま子ども会議」実施の振り返り.....	8
(3) 子ども代表挨拶.....	9
(4) 障害のある方への理解促進チームの発表.....	10
(5) 行きたくなる学校チームの発表.....	11
(6) 「子どもの権利」について知ろう！広めよう！チームの発表.....	13
(7) 放課後の過ごし方チームの発表.....	15
(8) 発表テーマに関係する部署の管理職よりコメント.....	17
(9) 講評・閉会の挨拶.....	19
(10) 参加者・保護者の皆様からの感想.....	21
4 報告会	24
(1) 開催概要.....	24
(2) 各課からの報告・各チームの参加者からの質問・提案.....	25
(3) 参加者・保護者の皆様からの感想.....	40
(4) 来年度へ向けて.....	44
5 関連資料	46
(1) 意見発表会資料.....	46
(2) 豊島区子どもの権利に関する条例.....	103
(3) としま子ども会議実施要綱.....	108

1 概要

(1) 目的

「豊島区子どもの権利に関する条例」第20条第4項に基づき、子どもたちが区政などについて話し合い、意見を表明する場を設けることで、区政に子どもの意見を反映するよう努めるとともに、「児童の権利に関する条約」や「豊島区子どもの権利に関する条例」に定める子どもの意見表明や社会参加の確保を図ることを目的として実施する。

「豊島区子どもの権利に関する条例」第20条第4項

区は、次代を担う子どもの意見を区政に反映するよう努め、子どもの意見を聴き、話し合う場として、としま子ども会議を開催しなければなりません。

(2) 対象者及び参加者

区内に在住または在学の概ね10歳（小学校4年生）～18歳までの子ども若者を対象に公募した。区内の小・中学校および高等学校等へ参加者募集用のチラシを配付するとともに、広報としま5月1日号や区ホームページにて募集案内を掲載。5月26日を締め切りとして参加者を募集した。

「としま子ども会議」参加者募集

「としま子ども会議」は、豊島区で「こんなことをしてみたい」「こんなふうになってほしい」ということを、仲間のみんなで話し合っ、大人の方々に発表します！ぜひ、一緒に参加してみませんか？

対象 区内在住・在学の概ね10歳(小学校4年生)～18歳の子ども・若者30名程度

内容 グループに分かれて豊島区について話し合ったり、必要な調査をして意見をまとめます。まとめた意見は区長さんや大人の方々に発表します。

時間 1. 会議 7月～8月
2. 発表会 8月の日曜日 ※くわしい日時は2次元コード参照

チーム ①障害のある方への理解促進 ②放課後の過ごし方について ③行きたい学校について ④「子どもの権利」について知ろう！広めよう！

場所 1. 会議 豊島区役所本庁舎内の会議室
2. 発表会 豊島区議会 議場(予定)

参加の方法 5月26日(金)までに、①郵便番号・住所、②学校名・学年、③氏名〈ふりがな〉
④電話番号・緊急連絡先を年々日(ふりがな)入力したいチーム名(最長20文字)及びそのチームを選んだ理由(それぞれ1行程度)を記入してメールで、子ども若者課地域支援グループ(A0017309@city.toshima.lg.jp)へお申し込みください。

【問合せ先】 豊島区子ども家庭部子ども若者課地域支援グループ ☎03-3981-2187

小学生用募集チラシ

「としま子ども会議」参加者募集

「としま子ども会議」は、子どもの皆さんが集まって、豊島区や区政についてテーマを決めて、会議で意見を話し合い、発表会にて区長さんや大人の方々に発表する取組です。
令和5年度の開催にあたって、参加者を募集します。ぜひ参加して、豊島区について「こんなことをしてみたい」「こんなふうになってほしい」を一緒に話し合いましょう！

対象 豊島区在住または在学の概ね10歳(小学校4年生)～18歳の子ども・若者30名程度

内容 班分けをして、班ごとに豊島区や区政についてテーマを決めて会議で意見交換したり、必要な調査をして、区長さんや大人の方々に発表する意見をまとめます。会議が全て終わった後、発表会で意見を発表します。

日時 ①会議 7月～8月
②発表会 8月の日曜日
詳しい日時については、2次元コードを参照ください。

チーム ①障害のある方への理解促進 ②放課後の過ごし方について ③行きたい学校について ④「子どもの権利」について知ろう！広めよう！

会場 ①会議 豊島区役所本庁舎内の会議室
②発表会 豊島区議会 議場(予定)

★参加申し込み★ 5月26日(金)までに、①郵便番号・住所②学校名・学年③氏名〈ふりがな〉④電話番号・緊急連絡先⑤生年月日⑥入力したいチーム名(第3希望まで)及びそのチームを選んだ理由(それぞれ1行程度)を記入してメールで、子ども若者課地域支援グループ(A0017309@city.toshima.lg.jp)へお申し込みください。
※希望者多数の場合は抽選となりますので、あらかじめご了承ください。

【問合せ先】 豊島区子ども家庭部子ども若者課地域支援グループ ☎03-3981-2187

中学生以上用募集チラシ

《令和5年度参加者》

氏名	ふりがな
今井 凧	いまい なぎ
坂元 康祐	さかもと こうすけ
中村 真奈	なかむら まな
平尾 めい	ひらお めい
山崎 彩華	やまざき いろは
川畑 帆花	かわはた ほのか
河原 実緒	かわはら みお
辻 優芽果	つじ ゆめか
中澤 佳之	なかざわ よしゆき
石川 こよみ	いしかわ こよみ
芝田 海斗	しばた かいと
長崎 大晴	ながさき たいせい
後藤 仁	ごとう じん
佐川 珠理	さがわ みり
齋藤 夜空	さいとう よぞら
鬼武 麗奈	おにたけ れな
中村 明優	なかむら あゆ

小学生 12 名、中学生 3 名、高校生 2 名 計 17 名

(3) 実施期間及び実施方法

令和5年7月～8月までの期間に会議及び意見発表会のリハーサルを全4回実施。

8月には意見発表会、1月には報告会を開催。参集形式にて実施。

(4) 実施内容

今年度は、「子どもたちに考えてほしい事柄」について事前に全庁的に募集し、4つのテーマを定めた上で参加者を募集した。テーマに関係する区職員に職員ファシリテーター研修を実施し、各チームに「職員ファシリテーター」として配置した。職員ファシリテーターは、区の取組等の助言や発表用資料作成のサポート等をしながら進めた。8月に意見発表会を議場で開催し、会議で考えたことや話し合った成果を発表した。1月には報告会を議場で開催し、各チームの担当課から、子どもたちの意見を踏まえた取組状況を報告した。

また、実施にあたっては過去3回の「としま子ども会議」に続き、幅野裕敬氏（NPO法人SLC代表）がファシリテーターとして会議の進行や全体統括を務めた。

2 各回の実施内容

第1回（7月24日）10時～12時、13時～17時

子どもたちへの趣旨説明を行った後、チームごとに分かれて各チームのテーマについての意見・提案を一人一人プレゼンしました。また、初回ということで参加者の皆で自己紹介やアイスブレイクをとりながら、コミュニケーションを深めました。

午後には、各チームに分かれての「調査活動」を行いました。テーマの課題、現状等についての講義を受けながら知識を深めたり、実際に区役所の中の窓口に行ってみたりしました。



参加者全員が1人1人自己紹介をしました



チームごとに意見交換をしながら進めました



「障害のある方への理解促進チーム」は、実際に当事者の方にお話を聞きました。



実際に区役所の窓口に行き、担当者にお話を聞きました。

<参加者の感想>

- ・ディベートをして、色々な人の意見を聞いたり、深く考えることができた。
- ・実際に仕事場に行って雰囲気をつかむのが良いと思った。
- ・テーマについて具体的な考えを持って良かった。区長さんたちにしっかりと自分の提案内容を伝えられるように頑張りたい。
- ・思っていたよりも話し合いの時間、見学の時間があって楽しいと感じた。自分の意見について深ぼりしていく時間が多くて、より具体的に考えることができた。

<職員ファシリテーターの感想>

子どもたちが自由に発言できていたように感じる。楽しそうに取り組んでいたことが一番良かった。

第2回（7月28日）10時～12時、13時～15時

第2回では、第1回会議でテーマについて調査したことや、チームのメンバーと意見交換した内する幅野さんと1対1で対話する中で、「豊島区でどのようなことを実現したいのか」「なぜそう思ったのか」を深堀していきました。

午後には、一人一人がみんなの前で提案内容について発表しました。発表者が解決したいと思った豊島区の課題について、他にも困っている人は何人いるか、具体的な解決策について「実現してほしい」と思う人が何人いるか、子ども会議の参加者の中でアンケートをとりました。



まず今日やることをみんなで確認します。



チームごとに意見交換をしました。



全体ファシリテーターの幅野さんと一人一人提案内容を深堀しました。



みんなの前で提案内容を発表しました。

<参加者の感想>

- ・みんなで話し合い、発表するのが楽しかった。
- ・みんなの自由な発想や本音が面白かった。学校や社会で広まったらいいと思う新しいアイデアもあった。
- ・発表練習があり、発表までの過程がよく分かった。
- ・提案を具体的に発表できて良かった。次のスライド作りも頑張りたい。

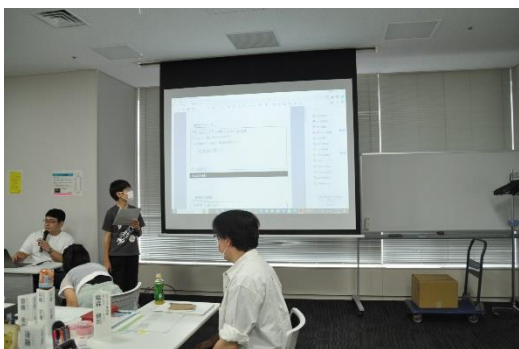
<職員ファシリテーターの感想>

- ・2回目ということもあって、子どもたちの距離が近づき、話し合いをする雰囲気が出来上がっていた。
- ・どうしてそう思う？ どうしたい？ と質問を掘り下げていくとそれぞれの思いが浮き彫りになって興味深かった。
- ・子どもながらに何かしよう、何かしたいと考えてくれていた。こちらも発信せねばと思わせてくれた。
- ・子どもたちがどのように考えているのかがわかり、とても参考になった。「大人にやってください」ではなく、「子どもがやれることを考える」ところがとても良いと思った。

第3回（8月1日）10時～12時、13時～15時

第3回では、まず1人10分ずつチームのファシリテーターと話す時間をとり、提案内容について前回に引き続いて深堀をしました。

提案内容が定まると、いよいよ意見発表会に向けての資料作りに入りました。学校などで普段からPC・タブレット操作をこなしている子どもたちは、慣れた手つきでスライド作成を進めていました。スライド作りでは、参加者同士でアドバイスをし合いながら進める姿が見られました。



前回欠席だった参加者は、最初に提案内容についてみんなの前で発表しました。



1人1人チームのファシリテーターと話をする時間をとりました。



スライド作りもファシリテーターと協力しながら行いました。



参加者同士でアドバイスし合いながらスライド作りを進めました。

<参加者の感想>

- ・みんなと楽しくスライドを作ったりたくさん練習することができた。本当にとっても楽しかった3回だった。
- ・スライド作りが得意になった。
- ・きれいなスライドが作れて良かった。リハーサルも頑張りたい。

<職員ファシリテーターの感想>

- ・中には文字入力が苦手な子もいたが、内容はきちんと考えてあるので、本番が楽しみだ。
- ・子どもたちが素直に話を聞いてくれた。想像以上にタブレットを使いこなしており、上手にスライドを作っていた。
- ・困っている子の手伝いをする姿が見られた。
- ・中学生が、発表の順番などを小学生に希望を聞いて、中学生らしく決めてくれていた。

リハーサル（8月19日）10時～12時

意見発表会の前日には、当日の会場である「豊島区議会本会議場」にてリハーサルを行いました。参加者のほとんどが初めて議場に入ったということで、「ここが議場か！」「初めて来た！すごい！」「広い！」と興味津々でした。

リハーサルでは、子どもたちの発表部分を本番と同様に演台の前に立って通して練習しました。「明日は区長さんや議長さん、保護者の方など多くの大人の前で発表するんだよ」という言葉に既に緊張した様子の参加者もいました。



初めての議場に緊張した様子でした。



本番同様、一人一人演台の前で発表しました。



開催概要**(1) 日時・会場**

日時：令和5年8月20日（日） 午前9時30分から11時30分

会場：区議会議場（豊島区役所本庁舎8階）

(2) 当日の出席者

■「としま子ども会議」参加者及び保護者の皆様

■「としま子ども会議」ファシリテーター NPO 法人 SLC 代表 幅野裕敬 氏

【豊島区より】

■高際みゆき 区長 ■天貝勝己 副区長 ■金子智雄 教育長

■副島由理 子ども家庭部長

【豊島区区議会より】

■池田裕一 議長 ■星京子 子ども文教委員長、

【豊島区関係課長】

■田邊栄一 障害福祉サービス担当課長

■小野義夫 子ども若者課長

■高橋隆史 庶務課長

■内田吉彦 放課後対策課 児童支援係長

【職員ファシリテーター】

■障害福祉課 安井利樹 主任

■子ども若者課 菅野有里 相談員

■庶務課 松山美代子 課長補佐

■放課後対策課 森田晴美 課長補佐

■ジャンプ東池袋 福森健司青少年支援員 ■ジャンプ長崎 伊藤宏美青少年支援員

(4) 実施内容

発表会前半に、子どもたちが「としま子ども会議」で考えたことや話し合った成果を発表し、テーマに関係する部署の管理職から発表に対するコメントや区の方向性等を子どもたちへお話しいただいた。また、発表会後半には出席した方々による講評も行った。

開会の挨拶（高際みゆき 区長）

今日は、沢山の子どもたちにご参加いただきまして、ありがとうございます。意見発表をさせていただくということで、本当に楽しみにしております。

今年の4月に子ども家庭庁が出来ました。国において、子どもを真ん中において色々な政策を考えていこうということで、「こどもまんなか社会」を表明しています。豊島区においては、子ども家庭庁が出来るずっと前から、未来を担う子どもたちは大事であるということで、色々な取り組みをしてきました。今年の2月には、



困っている子どもたちを守るために児童相談所をつくりました。来月には、子どもの声をもっと直接聞こうということで、「子どもの権利相談室」ができます。また、「子どもレター」というものを始め、皆さんの声が直接私に届くようになっています。色々な機会をとらえて、豊島区は子どもたちの声をもっと吸い上げて、より良い豊島区にできるよう頑張ろうと思っています。

このしま子ども会議も、夏休みに集中してやるように時期を早めました。皆さんの声を各部署で検討して、来年度の予算案に反映し、区議会に提案するのに間に合うようにしました。テーマも、豊島区が変えていきたいことや困っていることについて4つテーマをお示しして、皆さんのお知恵をもらうというように変えました。

豊島区は色々な課題があるので、今日の皆さんの意見を大変参考にしていますし、これからも区役所の取り組みにアンテナを立ててもらって、子どもレター等を使って私や職員たちに伝えてもらえればと思います。

最後に、ここは区議会の議場です。区役所にとっても非常に大事な場所で、ここで皆さんに発表していただくことを本当に楽しみにしていますし、良い思い出になるといいなと思っています。今日の子どもの会議の経験を生かして、これからも大事なことはしっかりと意見が言える、そして自分の意見だけでなくほかの人と意見交換をしてより素敵なものを考えていける大人になってもらいたいということをお伝えして、ご挨拶とさせていただきます。緊張せず、大きな声で自信をもって頑張ってください。

令和5年度「しま子ども会議」実施の振り返り（NPO 法人 SLC 理事長 幅野裕敬 氏）



しま子ども会議は、子どもの権利に関する条例に基づき、みんなの意見を大人がちゃんと聞いて反映していこうという目的で実施されています。子どもたちには、自分がやりたいことからまず考えましょうということと、他にも助かる人がいること、豊島区がまだやれていないことを考えながら実施していくことをお話しています。

今回は、子どもたちと考えたいことについて部署からテーマを募集し、その部署の職員に職員ファシリテーターとして全会議に参加いただきながら子どもたちと一緒に考えていきました。今日の子どもの発表は、5回分をぎゅっとまとめたものになりますので、まとめる中で言葉にならなかったものも、ファシリテーターの皆さんに拾い上げていただき、反映されていけばと思います。

活動の振り返りとしては、まずファシリテーターの皆様から部署の課題についてお話しいただき、その後実際にお仕事見学に行ったり、当事者の方からお話を聞いたりしました。そして、企画会議を進め、自分が解決したい課題は、区の課題のどんなものに近かったのかをきちんと決めました。また、大人にやってくださいというだけでなく、自分がその課題についてどう関わっていくかということまで考えました。今回は、自分がテーマとした課題について他の参加者はどう感じているかアンケートもとり、スライドの中に反映しています。

さて、いよいよ皆さんの発表になります。緊張していると思いますので、温かく見ていただければと思います。

子ども代表挨拶（後藤さん、齋藤さん）

皆さんこんにちは。今日は、第4回としま子ども会議の発表日です。今までで計4回の話し合いや練習をしてきました。今日はその成果を全力で出し切りたいと思います。

私は、今回としま子ども会議に初めて参加しました。そこで感じたことが主に2つあります。

まず1つ目は、私はこのように年齢などが関係のない話し合いの場というのに参加したことが今までありませんでした。そのため、自分とは特別違った意見を聞くことがあまりありませんでした。しかし、今回、としま子ども会議に参加してみて、自分とは違う年齢のいろいろな人たちから意見を聞くことができ、自分の固定概念とは違った様々な視点から物事を見ることができました。

2つ目は、私は、小学生のころや今現在、クラスや、委員会などの単位で話し合いをしたことはありました。しかし、こういった区などの大きい単位の会議に参加したことはありませんでした。今回、このとしま子ども会議に参加して、自分たちが大切な責任を担っていることが感じられました。また、自分たちが多くの人たちの役に立つことができている、ということも感じられました。

この会議で学んだことを活かして、これからも積極的に話し合いの場に参加していきたいと思います。そして、ファシリテーターの皆さん、区の職員の皆さん、本日は忙しい中、このような場を与えてくださりありがとうございました。今日はどうぞよろしくお願いいたします。



第2回としま子ども会議から参加をして3年目になります。

意見交換から発表会まで夏休み中に終える短期集中型は初めてで、今回初めて参加した方の中には職員さんや保護者の方にスライド作りをサポートいただいたかと思います。僕は、円グラフの作成方法がわからず、8月14日に子ども若者課に伺い教えていただき助かりました。困ったときいつも区の職員さんは優しく的確なアドバイスをくださり、安心して会議に参加できました。サポートくださった皆様ありがとうございました。

僕が毎年としま子ども会議に参加しようと思うのは、初めて参加した時に磯議員が「今回取り上げたテーマを、今回だけで終わらず来年度以降も継続して取り組んでほしい」とおっしゃったのが心に残ったからです。

発表のテーマは毎年違うのですが根底にある思いは変わらなくて、国籍が違ってても名前を知らなくても同じ豊島区で暮らす仲間を皆で応援し合えるオールとしまになったら、どんな困難も一人一人の勇気と皆のアイデアで乗り越えられると思っています。

4月に子ども家庭庁が発足し、としま子ども会議以外でも子どもが意見を伝えられる場が増えてきました。昨年度参加した際、木下議長が「区の方に何か聞きたいことがあれば、周りに住んでいる区議会議員や区役所の方に来ていただいてご意見やご要望をいただければと思います」とおっしゃっていて、僕一人で意見を言いに行くのは子どもだしハードルが高いと感じましたが、としま子ども会議で出会った仲間と一緒にいたら区役所にも子ども家庭庁にも意見を言いに行けるかもと感じています。としま子ども会議に参加し、意見表明することで、自分らしく過ごせる子どもが増えるように願っています。

障害のある方への理解促進チームの発表

【チーム名】 障害者公平チーム



左から、職員ファシリテーターの安井さん、中村さん、中澤さん、長崎さん

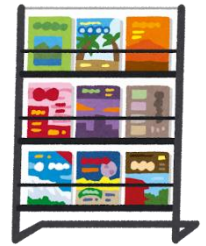
豊島区の障害のある方についての YouTube を子ども向けにしたり、としま土曜公開授業で、障害のある方についての特別授業を行ったりすることを提案します。実現すれば、子どもも保護者も障害のことについて学ぶことができ、障害のある人もない人も笑顔になれる豊島区になると思います。

中澤さん



絵本やYouTube、パンフレットを使って発達障害について伝え、発達障害者に関心を持ってもらえるようにしたいです。私自身も動画編集やインタビューをして、誰もが興味をもってくれるような内容にしたいです。実現すれば、誰でも公平に安心安全な生活ができると思います。

中村さん



「障害者の方はどんなことに困っているのだろう？」という知らない、わからない状態をなくすために、体験授業やイベントに積極的に参加することが大切だと思います。僕は夏休みに盲導犬、点字、車椅子の体験をしました。実現すれば、みんなが安全に安心して楽しく生活できる社会になると思います。

長崎さん



障害福祉課
安井主任

障害のある方や困っている友達の力になりたいという子ども達の熱意に触れて、気が引き締まる思いで毎回の会議に参加していました。障害のある方への差別解消に向けて、真剣に考えてくれて、子ども達ならではの新しいアイデアをどんどん出してくれたことは、とても嬉しかったです。今回提案してくれたアイデアを業務の中でぜひ活かしていきたいと思います。短い期間で、考えをまとめて資料を作成するのは大変だったかと思いますが、チームワーク良く楽しみながら、積極的に取り組んでくれたと思います。本当にお疲れ様でした。そして、素晴らしい発表と提案をありがとうございました。

行きたくなる学校チームの発表

【チーム名】 Happy School In Toshima



左から、職員ファシリテーターの松山さん、石川さん、鬼武さん、今井さん、河原さん



豊島区の課題は、休み時間に自由にできないことです。そこで、外遊びの時に中にいてもよいというルールをつくること、遊ぶ教室を増やすこと、外に休憩スペースをつくることを提案します。外割り当ての時は、本を読んだり図書室に行ったりすることができないため、課題だと思います。実現すれば、今よりも楽しく学校に行けると思います。

河原さん



学校で文化祭をすることを提案します。理由は、一人でやる学習が多くて寂しいので、授業をもっと楽しくしたい、みんなと一緒にできる授業が欲しいと思うからです。丁寧な言葉遣いや人とのやり取りは国語の勉強に、お金の種類・金額を正しく知って使いこなすことは社会科の勉強に、買い物の計算は算数の勉強になると思います。



今井さん



①自分に合う先生を選ぶこと②タブレットに教科書の内容を入れ、難易度順に問題演習ができるようにすること③休み時間に、その時自分がやりたいことに合わせて行く教室を選べるようにすること④自分たちでクラスを決めることを提案します。実現すれば、今よりも学校に行きたくなり、勉強による達成感を感じることができると思います。

石川さん



給食の食べ残しを解決するために、食育を行ったり配る量を減らしたりすることを提案します。具体的にはランチョンマットの代わりに栄養バランスシートを使ったり、ビデオ学習をしたりすることが効果的であると考えます。実現すれば、給食に対するイメージが変わり、給食が学校に来る楽しみの一つになるとおもいます。



鬼武さん

<行きたくなる学校チーム 職員ファシリテーターの感想>



短い期間で皆それぞれ自分の考えをしっかりとまとめ上げて、堂々と意見表明している姿を見て、とても素晴らしいと思うと同時に、身の引き締まる思いがしました。皆さんの様々な提案を受け、今後どのように実現させていくのか、今度は私たちがしっかり考える番です。意見を伝えてくれた皆さんの期待に背かないよう、真摯に向き合っていきたいと思えます。

庶務課 松山課長補佐

「子どもの権利」について知ろう！広めよう！チーム

【チーム名】We can voice our feelings. ～子どもがありのままに生きる～



左から、ファシリテーターの菅野さん、平尾さん、川畑さん、辻さん、佐川さん



アニメやゲームとコラボして、TikTok を利用して流したり、子どもの権利をアニメやゲームにして学校の授業で採り入れることを提案します。実現すれば、子どもの権利が子どもや若者に認知され、いじめなどの問題が解決しやすくなり、よりお互いを尊重し合えると思います。



佐川さん



出前授業を全学校、全クラスで実施することを提案します。子どもが講師を務め、先生や子どもたちに子どもの権利について知ってもらいたいです。また、子どもを対象として、先生や保護者に見せないアンケートを実施し、相談先に繋がりたいです。実現すれば、子どもが自分の思いを伝えやすくなると思います。

平尾さん



豊島区のHPは子どもにはわかりづらいので、子どもの権利について知ることができるクイズやアニメ、カウンセラーに相談できるページを新しく作ることを提案します。私自身は子ども目線のアドバイスをしたり、身近な人に伝えたいです。実現すれば、みんなが安心して生き生きと生活できると思います。



川畑さん



大人に子どもの権利について考え、理解してもらうために、①駅内の電光掲示板で紹介する②サンシャインシティのイベント開催時に講演会を行う③池袋駅の外にあるモニターで子どもの権利について紹介する動画を配信することを提案します。私自身は、講演会の主催者になって講演を行ったり、子どもの権利についての紹介動画の作成、出演したいです。

辻さん

<「子どもの権利」について知ろう！広めよう！チーム 職員ファシリテーターの感想>



「子どもの権利」について理解を深め、友達に伝えたいと参加してくれた小中学生。自らがもつ権利の大切さを知るとともに、友達、高校生や大学生、大人にもっと知ってもらうために、どのように発信していけるかを瑞々しい感性を働かせて話し合い、提案してくれました。どのような豊島区になってほしいか真剣に考える機会を得た子どもたち。今後の活躍が楽しみです。

子どもの権利相談室 菅野有里 相談員

放課後の過ごし方チームの発表

【チーム名】after school 8



左から、ジャンプ職員の福森さん、山崎さん、芝田さん、坂元さん、齋藤さん、後藤さん、職員ファシリテーターの森田さん

放課後に中高生が友達と楽しく過ごせるようにしたいです。「ジャンプ」のような中高生が遊ぶことができる施設を増やすこと、カフェなどを運営する会社（スタバックスコーヒーなど）に協力してもらい、中高生専用の事前に購入して使えるチケットを導入すること、本社が豊島区にある無印良品に協力してもらい、飲み物などを提供してもらうことを提案します。

後藤さん



豊島区の課題は、便利で実用性のある交通手段がないことだと思います。そこで、イケバスのエリア拡大、子ども専用ルートを作る、料金を安くする、終バスを遅くする、実用性のある新車を開発することを提案します。実現すれば、外で思い切り好きなところで遊べると思います。

坂元さん



駐輪場

全ての公園に無料で使える自転車置き場が欲しいです。僕自身は、この提案を学校で発表してみんなに理解してもらい、実現のための募金活動をしたいです。実現すれば、みんなが遊ぶ場所に自転車が置いてあることがないので、遊ぶスペースが広くなり、公園まで自転車で行くのが楽になると思います。



芝田さん

放課後に小学生が遊ぶ場所を増やしてほしいです。空き家を使って区民ひろばにして、動物や魚のふれあいゾーンを作りたいです。また、今公園にある遊具は小学生より小さい子向けだと思うので、小学生が楽しめる遊具がある公園も欲しいです。実現すれば、大人になっても豊島区や区民ひろば、その他の施設が好きでいられると思います。



山崎さん



居たいときに居られる居場所を増やしたいです。各中学校に「にしまるーむ」のような居場所をついたり、プランターで野菜を育てる部活動や委員会をつくることを提案します。また、職業講話で農家の人に来てもらい、農業を職業にする方法を教えてもらいたいです。子どもが放課後に何をしたいかを主体的に決められるようになったら、精神的健康が上がりウェルビーイングになると思います。



齋藤さん



<放課後の過ごし方チーム 職員ファシリテーターの感想>

子どもたちが放課後の貴重な時間をどのように過ごしたいと思っているのかについて、生の声を聞くことができました。足りていないことをネガティブに捉えることなく、「こうしたらどうかな？」と夢いっぱい発想をみんなで共有できました。子どもたちの新しいことを生み出す柔軟さと、少しのアドバイスでもそれをヒントに素早くまとめ、堂々と発表できる姿に感心するばかりでした。柔軟性、スピード感…働き方にも通じるものがあります。貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。



放課後対策課 森田係長

障害のある方への理解促進チームの発表へのコメントや区の方向性等について



田邊 障害福祉サービス担当課長

障害のある方が、障害について理解されないことによって、差別や偏見、いじめに繋がっていくことがあると思いますので、豊島区としてもさらに理解促進を進めていかなければいけないと感じています。豊島区では、障害の理解促進のための動画やパンフレットを作っていますが、子どもたちには難しい内容かもしれません。今後は子ども目線も検討していきたいと思いますので、ぜひご協力いただければありがたいです。

また、体験教室、イベントへの積極的な参加というご提案も、障害のある方への理解促進にとってとても大切な視点だと思います。豊島区では、ふくし健康まつりなどのイベントを行っておりますので、こうしたイベントの中でさらに障害のある方への理解促進を充実させていけたらと思っています。

豊島区では、障害のあるなしに関わらず、分け隔てられることなく理解し合い、互いに一人一人の尊厳を大切に、安心して暮らすことができる共生社会の実施を目標にしております。一緒に誰もが住みやすい豊島区をつくってまいりましょう。

行きたくなる学校チームの発表へのコメントや区の方向性等について

行きたくなる学校にしようということで、幸せな学校生活を過ごすための大変良い意見をいただきありがとうございます。

学校の休み時間の中々自由に活動できないという意見については、校長先生ともお話ししながら具体的な対応を今後進めていきたいと思っています。

また、皆と一緒に学びたいという意見については、とても大事なことだと思いますので、そういった意見を反映できるような学校にしていくこと、皆さんの成長をどのように見守っていくかということを考えていきたいと思っています。

様々な提案を聞き、学校生活の中で達成感を得られることが大事なのだと思いました。達成感を得られることが Well Being にも繋がると思います。今教育委員会では、子どもたちが幸せに学校生活を送るために今後どうしていこうかということを考えています。皆さんに本日いただいた意見を活かして、今後計画を作っていきたいと思っています。

また、給食の食べ残しにつきましても、豊島区は SDGs を推進しており、食育も教育の中で大変大事ですので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

今作成中の計画ですが、皆さんにもわかるような子ども版のパンフレットも作成していきたいと思っていますので、ぜひ見てみてください。



高橋 庶務課長

「子どもの権利」について知ろう！広めよう！チームの発表へのコメントや区の方角性等について



小野 子ども若者課長

子どもの権利については、5年前に実施したアンケートで、子どもの権利の認知度がかなり低いことがわかり、特に皆さんの世代の子どもの認知度が低いと、今回色々なご意見をいただきました。大人の感覚ですと紙のチラシやパンフレットを使って配るのですが、今はやはりYouTubeやTikTokなどの動画なのではないでしょうか。垣根を低くして皆さんがすぐに見られる環境を作っていくといけません。ゲームの話もありましたが、私もゲームに興味がありますので検討していきたいです。

また、相談については、皆さんの声をしっかりと聴かなければならないと思います。今もアシストとしまや皆さんのタブレットにあるアシストおはなし、なやみみフリーダイヤルがあります。さらに、9月からは子どもの権利相談室もできますので、色々なところに皆さん相談していただきたいです。

HPがわかりづらいというご意見については、やはり大人目線なので、子どもの皆さんにもわかりやすいようにしたいと思います。ぜひ皆さんの声を聞きたいと思っていますので、これからも皆さんにお願いすることもあるかと思いますが、ぜひご協力をお願いします。

放課後の過ごし方チームの発表へのコメントや区の方角性等について

放課後の過ごし方ということで多種多様なご意見を聞かせていただき、皆さんが放課後に対する課題を多くお持ちなのだ改めて認識させられました。

中学生の居場所づくりに関しては、今年度「にしまるーむ」を開設し、「としま地域未来塾」では学習支援を行っています。これらはまだまだ始まったばかりですので、皆さんのご提案を踏まえながら、さらに前へ進めて行きたいと思っています。

また、子どもたち移動手段としてIKEBUSに着目していただきました。IKEBUSの新たな活用の仕方については、これから皆さんと一緒に考えていければと思います。

公園に無料で使える自転車置き場を設置してほしいというご意見については、以前公園に無料の駐輪場を設置したことがあるそうですが、その際に、公園利用者ではない人も駐輪場を利用してしまい、公園利用者が駐輪場を利用できなくなってしまったようです。公園を利用する人だけが駐輪場を利用できると良いと思いますが、何か良いアイデアがありましたら是非教えてください。

空き家を利用して区民ひろばにするというご意見については、豊島区の空き家の多さを踏まえた素晴らしい発表であると思います。空き家の持ち主の中には、地域に貢献したいと思っているが、どうしたらよいかわからないという人もいるかと思うので、そういう方にいただいた提案をお伝えできればと思います。

食料自給率と放課後の居場所というご意見はなかなか目の付け所が素晴らしいと思います。豊島区にお住いの皆さんにとっては、農業は中々縁遠いものではないかと思いますが、放課後に農業や自然の場に慣れ親しめるような場を作ることができたら良いと思います。

これまで豊島区の放課後対策はスキップを中心に考えてきましたが、皆さんのご意見を踏まえながら新たなことを進めていきたいです。



内田 放課後対策課
児童支援係長

講評（池田 裕一 議長）



今日は本当に色々なご意見をいただきましてありがとうございます。

まず、この議場は4回の定例会で使用します。最初に区長の招集挨拶があり、その次に議員が「こうするべきではないか」ということを問うて一般質問が行われ、区長副区長が答弁を述べます。最後に、区から提案されたものについて賛成か反対かを決める大事な会議をします。区長が決めたことがあたりまえに決まるわけではなく、我々議員が内容を吟味して、議論し、本会議場で決定して実行されていくというのが議会の流れです。

今回、子ども会議を通して色々な気付きがあったと思います。その気付きを今回で終わりではなく、さらに広げていっていただきたいです。さらに、他にも新たな気付きがあれば、立ち止まって考えてみてください。そして、自分たちの目で見える範囲のことだけでなく、さらにその先にいる人のことも考えて、様々な思いをはせて考えてほしいです。

障害のある方の理解促進については、私も視覚障害のある方と何度もお話をする中で色々わかることができました。目の前に穴があるから落ちそうだといって手を引っ張ったらびっくりしてしまいますが、「穴があるから手を触りますよ。」と言ってから触れると感謝してくれます。そういう細かい気付きも知らなければわからないので、知ってもらうことが大切であると私も思います。そして、動画の話はどのチームでもたくさん出てきましたが、皆さんが面白い、見たいと思う動画を作ってもらい、それを広げていくことで、区として広げたいことがしっかりと広がっていくのかなと思いました。また、子どもの権利については、まず大人がしっかりと子どもの権利を理解していかなければいけないと思いました。皆さんの提案の中で実現がなかなか難しいものも、それをどのように解決していけばよいのかを皆さんと一緒に考えていければと思います。今日はありがとうございました。

講評（星 京子 子ども文教委員長）

今日皆さんの色々なご意見をいただいて、本当にあっという間の時間でした。皆さん豊島区を本当により良い街にしたいという思いがあつての意見発表であつたと思います。また、「これが足りないぞ豊島区」という言葉を聞き、私たち議員はここまで色々な活動をしてきましたが、まだまだ足りないのだと気づかされました。

障害のある方への理解促進については、何よりも体験して自分が知ることが、皆さんにとってはわかりやすいのだろうということに気がしました。私も盲導犬、聴導犬、介助犬、車いすバスケットの体験学習など一緒に活動させていただいておりますが、これからもぜひ皆さん実体験の中でその気付きを理解していただければと思います。知ることが一番の理解なのかなと感じました。

行きたくなる学校については、学び方、過ごし方、さらには先生の選び方まで自分たちが自分たちの立場で選べるのが、行きたくなる学校の1つなのだという意見をいただきました。自分たちで選べるような学校づくりということは、これから教育委員会の大事な課題になっていくと思います。

子どもの権利については、子どもたちが権利を主張するのではなく周りの大人たちがどれだけ理解していくかということが、今一番大事な課題であると思っています。様々な発信の仕方についてご意見をいただきましたが、議会でも今回の意見を伺いながら、対策や取り組みを進めていきたいと思っています。

放課後の過ごし方については、皆さんがそれほど自身の居場所を求めているのだと大変参考になりました。大人の居場所とは違う子ども専用の居場所ということで、様々な課題が挙げられていたと思います。今日の皆さんの意見を子ども文教委員会としても、議員それぞれの立場で把握していきたいと思っています。

最後に、ぜひ数年後は皆さんがこの場に座っていただいて、自ら施策を提言して取り組むような活動をしていただくことを望みまして私の講評とさせていただきます。本日はありがとうございました。



講評（金子 智雄 教育長）



今日は皆さん素晴らしい提案をいただきありがとうございます。

障害のある方への理解促進チームは、今、小中学校ではインクルージョンを大事にしていますが、まだまだだなと感じました。車椅子の実体験、大事ですね。車椅子バスケット専用の車いすを買った学校もあります。子どものころから、人数でいうと少数かもしれないけれど色々な人がいるのだということを多くの人を知ることが一番大事だと思います。

行きたくなる学校チームについては、文部科学省も言っているように、「個別最適」が今大事な4文字になります。その究極の話をいただきました。「私が先生を選ぶ、私がクラスを選ぶ」という提案、大人になると大学では自分で授業や先生を選びますよね。それを小学校ではできないのかということだと思います。少し悩ませてください。その他いろいろと自分たちでこういう風にやりたいたいというお話が多く、とても感心しました。「こういうことだったら私がやるよ。」と言ってきて、とても頼もしく思いました。

子どもの権利チームについては、出前授業や相談窓口はあるのですが、知られていないのだと思いました。まだまだ宣伝が足りないので、皆さんの手を借りて、色々な工夫をして、伝えていかないといけないと感じました。また、子どもの権利は、皆さんの安心安全のためであると改めて思いました。

放課後の過ごし方チームについては、みんなが楽しい放課後を過ごせて、良い子ども時代を過ごすことができれば、きっと良い大人になっていくと思います。これからもさらに小学校だけではなく、中学校、高校の放課後についても一緒に考えて楽しくしていきたいと思っています。

本日は本当に色々な提案ありがとうございました。一生懸命一緒になって検討していきたいと思っています。

閉会の挨拶（天貝 勝己 副区長）

皆さんご苦労様でした。色々意見をいただきまして、真摯になって取り組まなければいけないことが多くございました。

夏休みの中で、皆さん何日にもわたって子ども会議の中で沢山のことを経験したかと思えます。この経験がいつまでも残っていくことを祈っております。中でもここで生まれた皆さんの仲間、友達、チームワークがあって今日の発表に繋がったということを忘れないでいただきたいと思えます。

私も行政に非常に長いこと携わっていますが、区役所の仕事というのは、ほとんどが法令、法律、条令、規則に基づき、計画も作って行っています。特に計画を作るうえでは、区民の皆さんにアンケートを行って意見を聞いています。今回皆さんの意見を聞く中で、これは根本的に変えなくてはいけないと思うことが非常に多くありました。子どもたちの意見を聞く上では、HPの更新をしたり、正確な情報をできるだけわかりやすく伝えるということも区役所の仕事として重要だと思います。

今回いただいた提案・意見をしっかりと受け止めてまいりたいと思います。こういった意見をいただいた上で、区議会と一体となって意見を尊重する自治体を目指していきたいと思っています。今日は保護者の皆さんも一日来ていただきまして誠にありがとうございます。皆さんお疲れ様でした。



【参加者の皆様からの感想】※一部抜粋

- サポーター、ファシリテーターの方々と一緒に協力してもらいながら、スライド作成して、区長を始め、大人の人達の前で発表し、自分の意見を伝えることが出来て、参加して本当に良かったです。また、限られた時間内で、意見を伝える大切さを学びました。大人の方々が子供の意見を真剣に聞いてくれて、本当に嬉しかったです。



- 自分の提案が大人の人に聞いてもらえて嬉しかった。
大規模な場所で発表したことがなかったから、初めてそういう経験ができて嬉しかった。
参加してよかった！友達ができた！できた友達と一緒に会議をしたのがよかった！

- としま子ども会議に参加させてくださりありがとうございました。
私は初めて、このような取り組みに参加しました。とても楽しく、大切な時間でした。
としま子ども会議を作ってくれた皆さん、ご参加してくれた皆さんありがとうございました。
この夏、会議で知ったことをこれからも活かして未来に続けたいと思っています。



- 私は、としま子ども会議に参加して、今までは豊島区の政策や取り組みは大人の意見が多かったと思いましたが、子どもでも行動を起こして社会を変えられることがわかりました。

みんなの意見を尊重したり、ファシリテーターの方、一緒に活動した仲間たちと協力して議場で意見を発表することができました。



私は大人の方に対して、しっかりとはっきりとわかりやすく意見を伝えられるように努力しました。そして、自分の意見が将来採用されて、豊島区のみなが安心して暮らせる未来になると考えています。

【保護者の皆様からの感想】

○一つの課題に向けて答えを導き出す為に、色々な方の協力を受け出来た発表で、自分の想いをしっかり伝えている姿をみて、1回目の日程から参加する度に、成長を垣間見られ、本当に感動しました。

また、大人でも中々入れない、議場にて、発表する機会を頂き、また、真剣に子供の意見を拝聴頂き、子供、親共々、かけがえのない、体験が出来ました。心より感謝申し上げます。

これからも日常生活の中で、社会の問題点、困ったを自分事化して、社会の一員として、問題提起、解決が出来る様に、成長していきたいと思っております。



○ 子ども向けのお勉強的な内容かと思いましたが、予算取得のタイミングに合わせて本当に実現することを想定してスケジュールが組まれていたと区長さんからお話があり、本気で子供の意見を実現しようとしているんだなと感じました。

申し込みから参加まで時間があり、子供が参加を嫌がるかと思ったのですが、参加している子たちがステキだったからか、とても楽しそうに帰ってきましたので、とても安心し、応援することができました。このようなことでもない、議場に入るという経験をするとはなかったと思いますので、親にとっても貴重な体験でした。



この会議に子供を参加させたことで、私自身も区政の理解が深まったと思います。子供が参加してくれてとても良かったと感じています。

○ 申し込み時点からテーマに興味を持った娘、調べたり聞いたりすることでより知識を深め、また自分が住む豊島区のために何かを考えるということがとても素晴らしく誇らしいなと感じました。

議場での発表会、そこで議員さんや区職員の方のコメントをいただいたこと。区長へ直接発表ができたこと。すべて他とない貴重な経験でした。

娘自身、今後も継続して豊島区のことを考えながら自分ができることから取り組みたいと話していました。

短期間で集中して仲間と作り上げるプロセスも素敵でした。

親子共々大変貴重な機会にて充実した時間を過ごせました。



○ 息子から「としま子ども会議に参加したい」と聞いたときは、参加者（グループ）の皆さんや関係者の皆様とうまく議論を進めることができるか不安もありました。

しかし、息子が非常に楽しく毎回の会議に参加して議論を重ね、実際に区民の方や区の職員の方々から課題についてお話を伺ったり、自身でも様々なことや課題に興味関心を持ち、調べて考えていく姿に成長を感じました。

また、意見発表会当日は事前に準備をして、繰り返し練習したプレゼンテーションを緊張の中でも議場で、堂々とする子ども達の姿を目にすることもできました。

子ども達が豊島区の様々な課題に興味を持ち、自身でできることを具体的に考えて伝えることや、グループでの議論や自身で調べて考えた提案や意見について、行政のご担当者の皆様に真摯に受け止めていただけることは、得難い経験となりました。

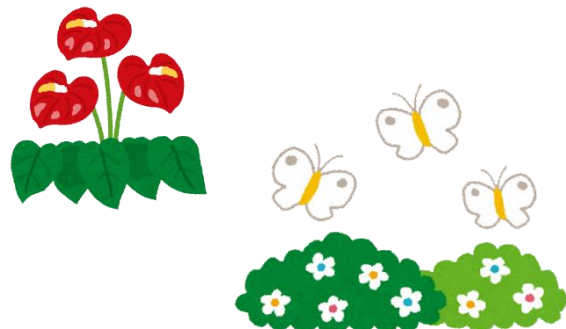


○ 自分が気になっていることについて、一人で調べるだけでなく、お友達の意見を聞いたり、大人の方のお話を伺ったりする機会をいただき、有意義な経験になったと思います。

本人は発表の際とても緊張したようですが、実際に豊島区の議場を使用させていただいたり、区の職員の方がお話しくださったりしたことで、自分も社会の一員なんだと自覚できたように思います。



※「としま子ども会議」の意見発表会終了後に、感想をご提出いただいた方のものを一部抜粋しています。



4 報告会

開催概要

(1) 日時・会場

日時：令和6年1月21日（日） 午後3時30分から5時15分

会場：区議会議場（豊島区役所本庁舎8階）

(2) 当日の出席者

- 「としま子ども会議」参加者及び保護者の皆様
- 「としま子ども会議」ファシリテーター NPO 法人 SLC 代表 幅野裕敬 氏

【豊島区より】

- 高際みゆき 区長 ■天貝勝己 副区長 ■金子智雄 教育長
- 副島由理 子ども家庭部長

【豊島区区議会より】

- 池田裕一 議長 ■星京子 子ども文教委員長、

【豊島区関係課長】

- 栗原せい子 障害福祉課長
- 小野義夫 子ども若者課長
- 高橋隆史 庶務課長
- 秋山直樹 放課後対策課長

【職員ファシリテーター】

- 障害福祉課 安井利樹 主任、橋本拓巳 主事
- 子ども若者課 菅野有里 相談員、河野光 主任
- 庶務課 松山美代子 課長補佐
- 放課後対策課 森田晴美 課長補佐

(3) 実施内容・目的

子どもたちに自身の意見が区で検討されていることを実感してもらおうと共に、子どもの意見の区政への反映を図るため、今年度初めて実施。各チームの担当課から、子どもたちの意見を踏まえた取り組み状況の報告をした後に、子どもたちから報告に対する質問・提案等を発表してもらった。

報告会の前に「事前ワーク」として、提案に対する質問・提案等をファシリテーターと一緒に考える時間をとり、子どもたちの発表の際は、幅野氏のサポートのもと、参加者が一人一人発表した。

子どもたちの質問・提案に対しては、テーマに関係する部署の管理職がコメントや区の方向性等を子どもたちへお話しした。また、報告会後半には出席した方々による講評も行った。

障害のある方への理解促進チーム



中澤佳之さんの提案に対する報告

提案内容

- ①豊島区の障害のある方についてのYouTubeを子ども向けにする
- ②としま土曜公開授業で、障害のある方についての特別授業を行う

障害福祉課で取り組んでいること

障害のある方への理解を深めるため、としまテレビの番組に定期的に出演しています。出演した時の映像はとしまサポート講座として、としまなまるチャンネル (YouTube) にアップしています。



10月31日 (火) Zoom会議で子ども達の意見を聞きました!

子ども達からは「内容が難しい」「気軽に見てられるように、ショート動画を作成する方がよい」といった意見がありました。

これからの取り組み

障害のある方へのサポート方法を子ども達が理解してもらえるように、子どもインタビューを企画します。子ども達が障害のある方へ「困っていること」や「支援してほしいこと」をインタビュー。その様子をVTRにまとめて、2月放送の豊島テレビの番組の中で放映します。

②の提案については、学校の先生に相談してみてね!



自分の意見が実現してとても嬉しく思います。豊島区の障害のある方についての YouTube について「初めて知る人向け」や「もっと知りたい人向け」など項目を分けることを提案します。YouTube では最初から大人目線だと伝わりづらいと感じる人もいますので、最初は子ども目線で、徐々に大人向けにすると良いと思います。

障害のある方への理解促進チーム



中村真奈さんの提案に対する報告

提案内容

- 発達障害について知ってもらう。
- 絵本やYouTube、パンフレットで伝えたい。
- 誰もが興味を持つ内容にしたい。

障害福祉課で取り組んでいること

多くの方に、障害のある方への理解を深めてもらうことを目的に、障害者へのサポート方法をまとめた啓発パンフレットを、令和5年10月に作成しました。



10月31日 (火) Zoom会議で子ども達の意見を聞きました!

子ども達からは「難しい言葉は使わない方がよい」「ふり仮名を振ってほしい」「最初(冒頭)は簡単な内容の方が読んでもらえる」といったアドバイスがありました。

これからの取り組み

子ども達にも分かりやすい内容にするため、来年度に向けて、子ども版パンフレットも作っていきたいと思います。その時は、子ども達にとって難しい言葉や表現を教えてほしいです。また、多くの子ども達が身近に感じられるよう挿絵も書いてほしいと思っています。



子ども会議を通して、障害について YouTube で紹介していることを初めて知りました。今後の子ども向けのパンフレットについては、小さな物語を入れたり、マンガを入れたりすると良いと思います。また、子どもにわかりやすい絵本を作って子どもに配りたいです。

障害のある方への理解促進チーム



長崎大晴さんの提案に対する報告

提案内容

体験授業やイベントに積極的に参加する。
広報として活動したい。自分の感じたこと、考えたこと、分かったことなどを伝え、豊島区の課題について、みんなといっしょに解決していきたい。

障害福祉課で取り組んでいること

12月3日に実施した「ふくし健康まつり」で、障害のある方の理解を深めるため、車いすの体験や盲導犬の活動紹介のブース、視覚障害のある方のためのPRブースを設けました。
子ども会議に参加してくれた子ども達も見に来てくれました～。ご来場ありがとうございました！

これからの取り組み

「ふくし健康まつり」は来年度も実施しますので、周りの友達へ宣伝してもらい、一緒に参加してもらうことで、障害への理解を深めてもらえると思います。
また「こんな体験ができればよい」など、多くの子どもたちが参加したくなる企画や宣伝方法のアイデアもお待ちしております。



いろんな
ブースがあ
るんだね～



ふくし健康まつりを実施することで、子どもから大人まで障害者について知ることができるのがとても良いと思いました。障害のポスターを学校で配ることで、子どもや大人に障害について知ってもらう機会が増えます。また、体験をすることで、障害者の気持ちや思いを感じとって、障害者についてより関心を深めて生活できると思います。



1月21日（日）の午前中に「障害のある方への理解促進チーム」の3名が集まり、視覚障害のある方へインタビューを行いました。

インタビューの様子は、2月19日（月）放送のとしまテレビの番組内で放送しました。

下記 QR コードからご覧いただけます。



としまなまるチャンネル
(YouTube)



中澤さん、中村さん、長崎さんに
撮影協力いただきました。
ありがとうございました！

「子どもの権利」について知ろう！広めよう！チーム

佐川珠理さんの提案に対する報告



提案内容

- ①「子どもの権利」の認知を広めるためにアニメやゲームとコラボさせる。
- ②TikTokを活用して「子どもの権利」を広める。

【①の提案についての報告】

アニメやゲームとのコラボすることについて、豊島区の子ども相談のキャラクター“なやミミ”を使った立体アニメーションやLINEスタンプなどを使って広めていきたいと思ひます。

【②の提案についての報告】

Instagramで「としま子どもの権利相談室」のアカウントを作って、「子どもの権利」の動画配信を行います。子どもたちがSNSで「子どもの権利」に触れることができるようにします。配信する動画については、佐川さんのアイデアも取り入れながら作りたひと思ひますので、ぜひ今後も意見を聞かせてくださいね。また、このInstagramを使って、子どもの権利を広めることに協力してくれる仲間も呼びかけていきたいと思ひます。



報告内容のイメージ



子どもの権利バージョン

なやミミ・すいトリ LINEスタンプ

子どもの権利 LINEスタンプ



立体アニメーションを使った取り組み



Instagramのイメージ



立体アニメーションをつくる時になやミミやすいトリを擬人化したり、ストーリーを作ったりしたら面白いと思ひます。区立小・中学校で配布されているタブレットを有効活用して、ゲームを作り、子どもたちに知ってもらふことも良いと思ひます。SNSだけだとどうしても見てくれる人が限られるので、ゲーム化して子どもの権利を伝えたら子どもたちにもわかりやすいと思ひました。

ぜひ私も動画編集などに協力して一緒に考えていければと思ひます。

「子どもの権利」について知ろう！広めよう！チーム

平尾めいさんの提案に対する報告



提案内容

- ①先生と子どもたちに「子どもの権利」について知ってもらうため、出前授業を全学校で実施し、子ども自身も授業の内容について一緒に考える
- ②先生や親に知られずに相談できるようにする

【①の提案についての報告】

子どもの権利についての出前講座を、希望があったすべての学校で行えるようにします。また、放課後の時間や学校が長くお休みとなる夏休みなど、学校の授業以外でも子どもたちが参加しやすい時間にできるようにします。出前講座を行う前に、子どもたちにも「どのような授業にしたいか、どのようなことが知りたいか」などアンケートをとり、子どももいっしょに学ぶ内容を考えることができますようにします。

【②の提案についての報告】

他の人に知られずに相談できるように、みゆき区長への「子どもレター」や、「としま子どもの権利相談室」があるのでぜひ使ってみてください。相談してくれたことは誰にも言わないので安心してね。また、その他にも学校のタブレットで“アシスとおはなし”からも相談できるので、ぜひ使ってみてください。



報告内容のイメージ



子どもレターから子どもの権利相談室につながることもできるよ



子どもレター

私にはどんな権利があるのかな。みんなといっしょに話してみたいなあ。



としま子どもの権利相談室

ソファやぬいぐるみもあるからリラックスして相談できるよ



区立小中学校で使っているタブレットから相談できるよ



「子どもの権利」について知ろう！広めよう！チーム

川畑帆花さんの提案に対する報告



提案内容

①子どもたちにもわかりやすいように、「子どもの権利」に関する子ども向けのページをつくり、子どもの興味を引くようなサイトを作る。

【①の提案についての報告】

豊島区のHP内に、大人向けのページだけでなく子ども向けのページも作ります。そこに、マンガパンフレットのキャラクターやなやみミ・すいトリ、子どもたちが書いたキャラクターなどを入れて、子どものみなさんが親しみやすくきょうみをもてるようなページを作ります。

また、川畑さんがイメージしている「東京都こどもきほんじょうれいハンドブック」のようなページも作れるよう、今後も検討していきます。

HPをつくるときは、ぜひアイデアを聞かせてくださいね。同じチームの佐川さんが提案してくれたSNSも使って、川畑さんの他にも協力してくれる仲間を募集したいと思います。子どもたちからのアイデアや感性をたくさん取り入れて、皆と一緒に「子どもが見たくなるHP」を作っていきたいと思っています。



報告内容のイメージ

子どもの権利豊島区ホームページ 子ども用ページを作成 (イメージ)



川畑さんが作ってくれたイラストです！

東京都子どもホームページ



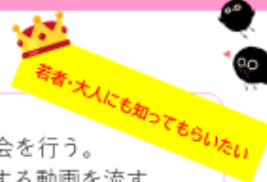
子どもの権利に関するパンフレットも、画面上でページをめくられるような仕組みになっていて子どもが「面白い!」と思えるような作りになっている。



私たちが作った豊島区のHPも東京都に発信して社会がより良くなるといいなと思いました。また、豊島区のHPで絵を募集することですが、そもそもの認知度が低く、応募者がいない可能性があるため、学校などに声をかけてみると良いと思います。私もイラストを描いたり、貢献できることがあったら貢献していきたいです。

「子どもの権利」について知ろう！広めよう！チーム

辻優芽果さんの提案に対する報告



提案内容

- ①学校で「子どもの権利」の壁新聞をつくる。
- ②サンシャイン60のイベント開催時に「子どもの権利」の講演会を行う。
- ③池袋駅の外にあるモニターで「子どもの権利」について紹介する動画を流す。

【①の提案についての報告】

千早小学校で来年度の6年生の授業に、子どもの権利についての壁新聞をつくる授業を実施してもらえることになりました。

【②の提案についての報告】

サンシャインシティでイベントが開かれるときに、子どもの権利についてアピールできるようにサンシャインシティと検討します。

【③の提案についての報告】

「子どもの権利」を多くの方に知ってもらうため子どもたちの意見を聞いて動画を作り、区民センターやグローバルリングの大型ビジョンなどで配信できるようにお願いしていきます。



報告内容のイメージ



「子どもの権利」の壁新聞



サンシャインシティでイベントを開くときに「子どもの権利」を知ってもらえるようにアピール



区民センター等の大型ビジョンで子どもの権利に関する動画を配信



サンシャインの噴水広場でアピールすると買い物の時に通る人も多く、色々な世代の人が見てくれると思います。

行きたくなる学校チーム

河原 実緒さんの提案に対する報告

提案内容

～休み時間に自由にできるようにしたい～

- ①外遊びの割り当ての時でも、室内にいて良いというルールをつくる。
- ②遊べる教室を増やす
- ③外に、本も読めるような休憩スペースを作る。

学校に聞いてみました

★読書も外遊びも、ひとりで集中することも、大人数で関わり合うことも、どちらも小学校では大切にしています!(^^)!

遊ぶ場所を割り当てしているのはこんな理由です。

- ・体育館や校庭で、混雑による衝突事故を防ぐため
 - ・外遊びで体を動かせる日を作り、体力向上に繋げたい。
- ⇒具合の悪い子は室内で過ごすことができるようにしています。室内で読書をしてOK。

★学校の校庭や体育館の広さや児童数が違うので、休み時間の決め事も違ってきます。

今後のとりくみ★

・河原さんに提案して頂いた、休み時間の過ごし方について、学校に伝えました。これから学級会などで、みんなにも河原さんの意見を聞いてもらう場をつくれるよう、学校と相談していきます。みんなの意見を聴いて、安全面に配慮しながら、楽しい休み時間となるよう考えます。河原さんの素敵なアイデアが実現するよう、進めていきます。

★外遊びや室内遊びの時間を上手に使い分けて休み時間を有効に使ってくださいね!

外遊びの時に、具合の悪くない子でも室内にいて良いようにしてほしいと思いました。また、朝に外ではなく図書館に行けるようにしてほしいです。

豊島区

外で遊ぶことも本を読むことも大切です。学校の先生とよく相談していただき、本を読む時間と体力をつける時間を計画的にとっていただければと思います。

行きたくなる学校チーム

今井 凧さんの提案に対する報告

提案内容

～授業をもっと楽しみたい・皆と一緒にできる授業がほしい～

文化祭をやりたい

⇒文化祭をやることによって...

- ★文化祭用のお金を準備する⇒お金の使い方がわかる (算数)
- ★話し方がうまくなる (国語)
- ★企画ができるようになる (社会)

学校に聞いてみました

★授業や「子ども祭り」などで、子どもが自主的に活動する場を設けています!

・文化祭とはちょっとちがうかもしれないけど、小学校でやっている、「子ども祭り」のとき、みんなで考えて、お店を出すことがあります。
・高学年になると、係活動で模擬のお金を配って、そのお金をふやすために子どもたちがいろいろと考えて活動しているクラスがあります。

今後のとりくみ

・凧さんの提案は、学校に伝えました。今後は、学級活動の時間を使って、「もっと楽しい学校にしたい」をテーマにみんなと話し合いの場を持てるよう、学校に伝えていきます。凧さんの「楽しい」がみんなの「楽しい」と重なれば、一緒に考えてくれる友達がでてくると思います。

・「子ども祭り」を凧さんが提案してくれた「文化祭」に近づけることができるよう学校と一緒に考えていきます。

先生たちは、子どもたちの思いをふくらませる学習活動の工夫を研究しているよ!

学級活動の時間で子ども祭りのことなど楽しいことを採り入れたら授業が楽しくなり、僕が発表した「授業を楽しみたい」が実現すると思います。学校の授業で習ったことを活かせるような場が学校の中で作れると良いと思います。



行きたくなる学校チーム



石川 こよみさんの提案に対する報告

提案内容

～自由で楽しい学校にしよう！～

- ①先生紹介パンフレットの中から先生を選び、授業を受け、先生評価アンケートに答える。
- ②タブレットに教科書の内容を入れる。タブレットでレベルに応じた問題を解けるように。
- ③休み時間にやりたいことに合わせて好きな教室に行く。タブレットで教室の混み状況を確認する。
- ④自分たちでクラスを決める。

③について学校に聞いてみました

遊ぶ場所を割り当てているのはこんな理由です。

- ・体育館や校庭で、混雑による衝突事故を防ぐため
 - ・外遊びで体を動かせる日を作り、体力向上に繋げたい。
- ⇒具合の悪い子は室内で過ごすことができるようにしています。室内で読書してもOK。

タブレットで教室の混み具合を確認することについて

- ・ほとんどの学校は、現時点では難しいという回答でしたが、1校だけ、月に数回は可能かもしれない。と回答してくれた学校がありました。

★子どもたちの意見をとり入れた学校づくりをしていきます。

今後のとりくみ

①について

・とても画期的な提案ですね。先生を選んで授業を受けることは、小学校では難しいけれど、授業のわかりやすさなど、みんなの声を聴いて授業改善に繋げていきます。

②について

・タブレットと教科書両方持ち運びするのは大変ですね。今はタブレットの中に教科書が入っている教科は特定の教科だけだけれど、近い将来、他の教科もデジタル化するよう進めています。皆さんの教科書持ち運びの負担がなくなるよう、先生たちと話しあい、改善していきます。

④について

・こよみさんが困っている気持ちがよくわかりました。今社会では、さまざまな人が一緒になって、よりよい社会をつくることを目指しています。学校でも、いろんな人、いろんな意見をもっている友達と一緒に勉強しながら、みんなでより良いクラスを作っていくことを目指しています。ですので、自分たちでクラスを選ぶようにすることは難しいですが、みんなが居心地の良いクラスになるよう、先生たちと話し合い、工夫を重ねて、だれも行きたくなる学校にしていきます。



係で発表をするときに、その内容がみんなに知られてしまうと面白くないので、みんなが見ていないところで練習できるように学校の中の空いている部屋を貸してほしいとです。また、算数少人数は3コースに分かれています。算数の能力だけで分けられているので授業態度も考慮してほしいです。

行きたくなる学校チーム



鬼武 麗奈さんの提案に対する報告

提案内容

～給食の食べ残しが気になります～

- ①学習を通して、子どもたちの「食」への意識を変える。
- ②給食を食べる時間を増やす。
- ③配膳する量を減らす。

学校に聞いてみました

給食の量は、年齢ごとの必要カロリーや栄養面、様々な面から検討して栄養士さんが考えているものです

給食の食べ残しに注目してくれたことを高く評価します★

こんな工夫をしています！

- ・毎日の残菜（飯）量の計測と配ぜん量の調整
- ・リクエスト給食や、セレクト給食の実施
- ・先生が検食で味をチェック
- ・配膳など準備の時間を短くし、食べる時間を長くとする
- ・残飯を学校園の有機肥料に利用

実際、残菜（飯）量が減ってきている学校も！

今後のとりくみ

・不人気メニューは同じ材料を使って別のメニューに改善します。

・食べる楽しさや栄養について学ぶ機会（親子料理教室、生産者との交流などのイベント）をつくり、「食」に興味を持ち、楽しい時間となるような企画を栄養士の先生たちと一緒に考えます。

・これからも、ひとり一人が食べ残し解消に向けて何ができるか考える機会をつくっていきます。



放課後の過ごし方チーム

後藤仁さんの提案に対する報告

提案内容

- ①「ジャンプ」のような中高生が遊べる施設を増やす。
 - ②スターバックスなどのカフェを運営する会社の協力で、区が発行する「中高生が使えるチケット」を親が購入し、利用しやすくできるシステムを作る。
 - ③豊島区に多い「無印良品」の協力で休憩スペースや飲み物の提供をしてもらう。
- ★なぜかというところ…中学生が数人で街を歩くとじろじろ見られる。
友達とゆっくり話ができる場所がほしい。

子ども若者課に聞いてみました！

ジャンプを今すぐに増やすことは難しいけれど、中高生がやりたいことをジャンプ以外の場所でも実施できるように、内容を充実させていきます。

◎皆さんからの意見を集めます

ジャンプの利用者会議、子ども会議、子どもレターなどで意見を集めていきます。

◎皆さんからの提案を実現するために

- ・ジャンプの利用者会議でどうやったら実現できるのかを中高生と話合っていきます。
- ・区を盛り上げてくれる街の人と区のミーティング「チームとしま」で仁さんの提案を伝え協力者を探します。
- ・地域で活動するNPOや企業にも働きかけていきます。



放課後の過ごし方チーム

仁さんへ！こんなことやっています！

▽2月1日にジャンプ東池袋が中高生の意見をたくさん取り入れてリニューアルオープンするよ！ぜひ遊びに来てください！

▽中学生の居場所として、としま土曜部活やとしま地域未来塾があります。友達と一緒に参加もできます。「これなら参加してみたい！」という意見を聞いていきます。

▽雑司ヶ谷公園丘の上テラスは、毎週水曜日が子ども時間です。昼12時から夜9時までやっています。5時までは小学生、5時から9時までが中高生タイムです。おしゃべりしたり、勉強したり自由な居場所です！

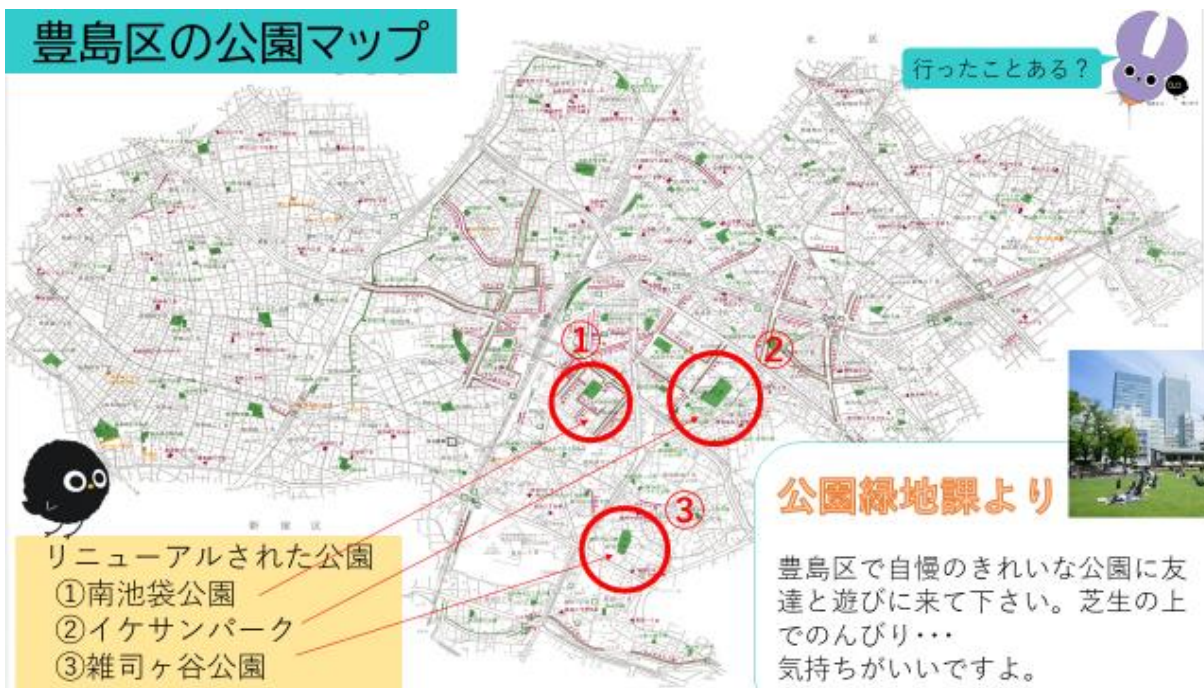


ジャンプ東池袋



雑司ヶ谷公園
丘の上テラス

豊島区の公園マップ



リニューアルされた公園

- ①南池袋公園
- ②イケサンパーク
- ③雑司ヶ谷公園

公園緑地課より

豊島区で自慢のきれいな公園に友達と遊びに来て下さい。芝生の上でのんびり... 気持ちがいいですよ。



ジャンプ東池袋がリニューアルオープンすると知り、機会があったら友達と行ってみたいと思いました。NPO や企業にも働きかけているとありますが、どのような企業の人たちとどのようなことを計画しているのか知りたいです。また、ジャンプのような施設をすぐに増やすのは難しいとのことですが、具体的にどのようなことなら可能なのか知りたいです。

企業や NPO の特に若い人たちが、区の課題についてやりたいことをプレゼンして繋がる場として「チームとしま」があります。遊びや放課後としては、例えば 11 月にグローバルリングでアーバンスポーツをしました。他のスポーツや音楽についても団体から提案をいただいている、これから進めていきます。皆さんに放課後色々なことを楽しんでほしいというアイデアを役所だけでなくそこで繋がった企業等と組んでやっていこうと思います。また、遊び場や居場所については、現在区内でプロジェクトチームを作って検討しています。中高生が安心して過ごせる場所は意外に沢山あるので、中高生の皆さんにわかりやすいようにマップや表にして伝えていきたいです。

豊島区

放課後の過ごし方チーム

坂元 康祐さんの提案に対する報告



提案内容

IKEBUSを活用しよう！
→近くの公園や小中学校に「イケバスのバス停」を配置して子ども専用ルートをも！
→IKEBUSの料金を安く、最終バスを遅く！
→実用性のある新車を開発！
★なぜかというと…ボールが使える広い公園は限られていて、遠いし…そのほかにも遊ぶ場所を自由に移動してみたい！

都市計画課に聞いてみました！

イケバスは、みんなの人気者で豊島区の顔?!とても注目されているから、もっとこうなるといいな…という声もたくさんあるんです。

★今やっていること

- ・保育園の子どもたちが公園に行くときや遠足の時に安全な移動手段として使っています！
- ・情報誌IKENAVIやSNSで、イケバスでめぐるまちの魅力をご案内してます。→アトカルツアー！
- ・イケバスアンケートやっています。いつでも意見をきかせてね。→イケちゃん名刺の裏をみてね。

おまけ★イケバスのひみつ教えます。

- ・1台しかない「黄色のイケバス」知ってますか。これに出会ったらいいことがあるとか…
- ・1台ずつ内装が違うよ。乗ったら確認してみてね！



放課後の過ごし方チーム



康祐さんへ！これからやってみます！



★「身近な場所にバス停を！」ルートの変更は「地域公共交通会議」で決められています。豊島区内には道路が狭くてIKEBUSが通れない道路もあるけれど、学校や公園などを回れるルートが出来ないか検討してみます。

★「料金をもっと安くして！」IKEBUSを運行するにはたくさんのお金がかかります。そのため、料金を今すぐ安くするのはむずかしいです。

★「最終バスを遅くしてほしい！」夏の間は、遅い時間までの運行を計画中です。

★「実用性のある新車を！」今走っているIKEBUSを大切に使用していきます。今後、新車を導入する場合は、子どもからの意見も参考にします。

★2月1日～新ルートになります！

サンシャインシティ・池袋保健所
としまキッズパーク
IKE・SUNPARK
に最短で行けるようになります！



放課後の過ごし方チーム



イケちゃんをご紹介します！

豊島区内の魅力的な観光スポットや文化施設を回るよ
「IKE BUS アトカルツアー」!!

ツアーコース 主に土曜・日曜・祝日の予め決められた開催日に運行します。

午前・東コース

【集合】豊島区役所本庁舎1階ロビー：午前10時に集合（午前10時10分発車）
→鈴木信太郎記念館→大塚駅周辺バラと都電のまち→大正大学すがも鴨台観音堂→イケ・サンパーク→雑司が谷鬼子母神堂

午後・西コース

【集合】豊島区役所本庁舎1階ロビー：午後2時に集合（午後2時10分発車）
→自由学園明日館→熊谷守一美術館→トキワ荘マンガミュージアム



■大人

午前:東コース……1,000円 / 午後:西コース……2,000円

※未就学児/学生/障がいのある方は、**半額**です！

★参加者には、**おみやげをプレゼント!**

アトカルツアーで
としまの魅力を再発見!!



放課後の過ごし方チーム

芝田 海斗さんの提案に対する報告

提案内容

全ての公園に無料で使える自転車置き場が欲しい。

★なぜかというと…

みんなの自転車がどこに置いていいかわからなくて、あちこちに倒れていて、鬼ごっこして転んだり、危ないし、公園の周りに置くと近所の人に注意されるから…



公園緑地課（こうえんりょくちか）に聞いてみました！

→これまでは…公園の駐輪場に、放置自転車がが増えてしまって、回収に今も見回っていますが、またすぐに放置していく人がいます。近所の人迷惑にもなるので、置き場を無くしたり、そもそも公園が小さくて作れないということがあります。



放課後の過ごし方チーム

海斗さんへ！これからやってみます！

海斗さんの言うとおりに、公園を使う子どもたちにとって自転車置き場は必要ですね！

スペースのある公園には、**ラインや表示をして**「この辺りにおきましょう！」とおおよその置き場をわかりやすくするなど、いろいろ試してみたいと思います。



これいいね！

じてんしゃは、このあたりにならべてね。



放置自転車を警備するためのカメラを設置すれば放置した人がわかるし、「防犯カメラ搭載中」「放置自転車はだめです」といった看板をつければ、放置する人が減ると思います。また、「公園にラインや表示をする」とありますが、道に自転車を停めて買い物が出るように、公園以外の普通の道にもしてほしいです。

放課後の過ごし方チーム

山崎 彩華さんの提案に対する報告

提案内容

「区民ひろばを増やしてほしい」
・空き家を使って区民ひろばを作る。2階は動物や魚のふれあいゾーンを作りたい。
「もっと小学生でも楽しめる遊具がある公園も欲しい」
・ジャブジャブ池、アスレチック、トンネル型ローラーライダー、ひみつきちが欲しい
★なぜかというところ…
区民ひろばが好きだから、もっと楽しくしたいし、いつも混んでいるから

区民ひろば課と公園緑地課（こうえんりょくちか）に聞いてみました！

★いまやっていること

- ・区民ひろばは、豊島区内に**22か所**あります。小学校が22か所なので、学校と同じ数のひろばがあるんです！
- ・椎名町や要町など改修して、きれいで使いやすくなったひろばが増えていますよ。
- ・小学生タイム（3：30～5：00）にたくさん遊べるように工夫しています。
- ・公園は、園庭の無い保育園の幼児さんが使うようになって、小さい子向けを増やしてほしいという要望が多いので、以前より増やしています。



放課後の過ごし方チーム



彩華さんへ！これからやってみます！



区民ひろば課

- ・これから「子どもの遊び場検討会」があるので、彩華さんの意見を参考にします！！
- ・22か所の区民ひろばを、もっと皆さんのためになるように今話し合っています。たとえば…広い場所があるひろばには、一緒に身体を使って遊んでくれる人を探して、子どもたちと運動ができるように考えています。

公園緑地課

豊島区は、南池袋公園やイケサンパークなど大きながどんどん新しくなっています。これからも公園を新しくするときには、区民の皆さんとワークショップを開いたり、新しくする公園近くの小中学生にもアンケートをします。欲しい遊具や遊び方など教えてください！

今年は… 大塚台公園をリニューアルするためにワークショップ開催中

来年は… 古くなった区の公園を改修する計画をつくりまします！

そのために利用している皆さんからも話を聞く予定です！



区民ひろばが22か所もあることを知らなかったの、聞いてみて良かったです。
区民ひろばが1つの学校の近くに2つあると満員にならないので良いと思いました。また、長い休みの時は区民ひろばにいられる時間を長くしてほしいです。

放課後の過ごし方チーム

齋藤 夜空さんの提案に対する報告



提案内容



- ・各中学校に「にしまる一む」のような居場所をつくる。
- ・プランターで野菜を育てる部活動や委員会を作る。
- ・職業講話で農家の人に来てもらい、農業を職業にする方法を教えてもらう。
- ★なぜかというと・・・にしまる一むでは、先生も生徒もみんな楽しそうに笑っている。とてもいいことだから、どこの学校にもあって欲しいと思ったから。
- ・東京では自然体験も少なく、大切な農業を職業として選択する人が少ないから

にしまる一むについて、**放課後対策課**が答えます！

- ・5月に始まったにしまる一むは、12月までに計31回で延べ1,237人が利用しました。
- ・にしまる一むは、地域の人、NPO、学校、PTA、区の大人達が「にしまる一む応援団」という名前でもより良くするための話し合いをしています。

農業体験などについて、**指導課**が答えます！

- ・全ての中学校で、3年間のうちに何かしらの自然体験授業がありますよ。
- ・農業に関する学びや取組が授業や特別活動にどう位置付けていけるかを考えていきます。

放課後の過ごし方チーム

夜空さんへ！これからやってみます！



放課後対策課

- ・にしまる一むは、1月から週3回開催して部活動で来れなかった子も利用できるようにします。
- ・いろいろな居場所を増やせるよう学校と相談していきます。
- ・としま土曜部活など、新たな仲間と楽しい経験ができるよう取り組みます。

ダンス部！



かっこいい！



にしまる一む



にしまるです

そこで！夜空さんをお願いします！

夜空さんが大切にしたい「池袋の森」や「目白の森」の自然を守る活動を「としま土曜部活」などでチャレンジしてみるのはいかがでしょうか。中学生が街のために力を発揮して活躍できたらいいですね。ぜひ、一緒に考えていきましょう！



にしまる一むの回数や利用者数を知って驚きました。また、地域の人、NPO、学校、PTAの方が「にしまる一む応援団」という名前で活動しているということを知りました。農業体験について具体的にいつどこで自然体験授業をしているのか知りたいです。自然を守る活動を「としま土曜部活」で行うことはとてもやりたいですが、土曜日には部活動があるので、曜日が被らないように他の曜日にやってもらえたら嬉しいです。また、小中校生がボランティアをする機会を増やしてほしいです。

【参加者の皆様からの感想】※一部抜粋

- としま子ども会議を通して、私の知らない場でもこのように大人と一緒に豊島区をより良くすることができることを知りました。私はこれからも豊島区に親しみ、私が大きくなった頃に豊島区がたくさんのことを実現できるような関わり方をしたいです。また参加したいです。



- まずは、自分の考えた政策が実際に取り入れられたということをととても嬉しく思っています。

豊島区の課題や池田議長さん、高際区长さんなどとお話（交流）できたり、豊島区の取り組みを知ることができて、とてもよかったと思いました。

- 自分が考えたことについて、区役所で検討して下さったことに感謝しました。自分の意見や考えを発表する場も、もう少し欲しかったです。グループの担当の方や、同じグループの友達にまた会えて嬉しかったです。機会があったらまた取り組みたいです。



- 自分の思っていることを伝えることは難しかったけど幅野さんや区役所の方々が協力してくれたからうまくまとめられました。一生懸命発表したことを、大人の方たちがみんな考えてくれたことが嬉しかったです。また、普段は入れない議場なので少し緊張したけど自信ができました。また出来れば来年も参加したいです。

- 報告会は他のチームにも質疑応答ができれば良いと思いました。

議場での質疑応答は初めてで緊張しましたが、事前ワークの時にファシリテーターと一緒に考えてくれて、言いたい事をまとめられていたので安心して話せました。

話しにくい子は幅野さんがサポートしてくれたので意見を伝えられたと思います。



【保護者の皆様からの感想】※一部抜粋

○ 報告会という形で提案内容に対する進捗状況をお伺い出来て、子ども自身も私も、高際区長を始め関係担当部署の方々が、ご多忙の中真摯に向き合い回答して下さったことに対して、改めて感謝の気持ちでいっぱいでございます。

子ども自身も、自分の意見を採り入れてくれて、街づくりの一端を担えることに対して、とても誇りに思え、自分の住む街がより好きになり、また、日々生活している上での子ども目線の改良改善の気付きを積極的に発信して良いんだと再認識できたようです。また、報告会の際に高際区長が追加で補足説明して下さったことがとても嬉しかったようです。

小学生のこの時期に、このような経験ができることは、子どもにとってかけがえのない財産、成長につながり、とても貴重な機会となりました。普段の生活の中で政治を直接意識することは中々難しいですが、身近な行政から政治を意識できるとも良い取り組みだと思います。

報告会の取り組みの関しては、事前ワークの時間はもう少し長くても良いかと思えます。

また、今回、報告書は当日発表で、事前ワークにて話し合いでしたが、やはり事前に報告書のご提示を頂き、予め自分の意見を取りまとめた上で、当日の事前ワークでより深く話し合いをした方が、報告に対する質問事項も多くなり、より報告会も活発なやり取りがあって良かったのではないかと思います。



○ 今回の会議、親子共々素敵な経験をさせていただきました。

知らなかったことに触れられただけでなく、自分たちがより深く豊島区のことを考える機会となりました。娘にとっては他の子どもとコミュニケーションをとり、何かを創り上げる大きな経験となりました。



自分の思っていることを表現すること、人前で発表する際の工夫や気付き。彼女の財産です。

○ 子ども意見を区政に反映する、「こどもまんなか」の取り組みを豊島区が積極的に行っていることを知るきっかけになりました。

豊島区政や具体的な取り組みについて、これまで以上に興味関心を持つきっかけとなりました。

としま子ども会議に参加し、子どもが社会問題を取り上げたニュースやテレビ番組、Web サイト、本などにも興味関心を示し、社会問題と自身を結び付けて考えようとする好奇心も生まれてきていると感じます。

子どもの意見を真剣に受け止めて検討して下さる行政の方々、そしてそこで生まれるコミュニケーションが、子どもたちにとって、また豊島区にとっても貴重なものになるのではないかと思います。



○子どもたちの提案に対して、区役所の方たちが真剣に検討し、その報告会まで開催して頂いたことに驚きました。当初、報告会と聞いたときに、正直あそこまで踏み込んで検討しているとは思っていませんでしたので、イメージが変わりました。高際区長を始め豊島区役所の方々の「区民のリアルな声に耳を傾け、良い方向に変えていこう」という気持ちが伝わってきました。

一点、報告会の最後のほうでも何人かの方が「モヤモヤする」と仰っていましたが、私も同じように感じた場面がありました。その場面とは、子どもの意見として「休み時間に外で遊ぶことが強制されている。教室で本を読んだり、子どもの自由にさせて欲しい」という意見があり、それに対する教育委員会の方の回答が「体力をつけるためにも外で遊ぶことが必要だから、先生の言う通りがんばってみよう」というものでした。



たしかに仰ることは正論なのですが、前時代的な印象を持ちました。画一的な型に押し込める杓子定規の運用ではなく、子どもの個性に合わせた柔軟な運用をしても良いのではないかと感じました。意見した生徒さんの落胆した表情を見て、胸が締め付けられました。

○子ども達の提案に対して、大人の方達が、真摯に受け止め個人の提案、疑問を解決しようとする姿勢が大変素晴らしかったと感じました。子供達の提案が一方通行にならず、身近な大人以外の大人と向き合えたことはとても良い経験になったと思います。また、自分の子どもだけでなく参加者の皆さんの意見や発表を聞いたことで、様々な気付きがあり私自身も勉強になりました。

子どもたちが区の行政の仕事や、流れ、決定から実行までに困難な課題があることや、様々な人が関わっていることを知るきっかけとなる、大変素晴らしい経験だったと思います。

このような機会を与えてくださりありがとうございました。



○素敵な取り組みで感動しました。「難しい」という回答でピュアな可能性を潰すのではなく、やれる方法や代替策を模索するようなやり取りをする、素敵な会、会議にこれからなっていくことを期待しています。

○意見は聞かれることはありますが、結果がどうなったのか教えていただける機会はほとんどないので、真剣に区民の、特に子どもの意見を採り入れていこうとされている区の姿勢を強く感じました。お忙しい中、本当にありがとうございました。

ただ、やはり子ども相手だということで、説明が足りていないと感じた部分がありました。

たとえば、学校の休み時間に自由に過ごしたい、という意見については、「体力向上につかってほしい」との回答でしたが、「休み時間は誰のためのものなのか」という、子どもの権利に関する要求だと感じましたし、なぜ自由に過ごすことが許されないのか、納得のいく説明になっていなかったと思います。回答側の曖昧さについて言及できるほど、子どもたちは言語能力が高くありません。そのような、武器の差がある状態で、対等な雰囲気に対応するのは、大人の誠意が少し足りないように感じました。何かしら、子どもをもう少し強力にサポートする人をつけないと、対等な会話にならないのではないかと感じました。



また、先生を評価するという提案についても、「小学校では難しい」との回答でしたが、なぜ小学校では難しいのかなど、子ども側の弁護をしようと思えば深掘することができそうでした。

また、組織上の問題かと思いますが、やはり課を越えた問題解決には腰が重そうだなということも明らかに見えました。



※「としま子ども会議」の報告会終了後に、感想をご提出いただいた方のものを一部抜粋しています。

【来年度へ向けて】

～豊島区子どもの権利委員会委員からのご意見～

今年度としま子ども会議の「報告会」がありましたが、この取り組みこそが子どもの意見表明権を実現するものであることをご理解いただきたいと思います。

豊島区子どもの権利に関する条例に、子どもの意思「決定」権の尊重ではなく、意見「表明」権の尊重と明記されていることは、上記「報告会」の実践が重要なのです。

例えば、子どもからの提案・意見の中で「壁新聞」を作りたいとありました。これを報告会を経ずにただ「壁新聞」を学校で実現することは、子どもの意思「決定」権を尊重したことにはなるかもしれませんが、意見表明権を尊重したとは言えません。

子どもがある意思を表明したことに対して、大人が、どのように考え、子どもにフィードバックするのかが意見表明権の本質です。

昨今、「子どもがこうに言っているから」という口上をよく聴きますが、意見表明権を尊重しているとは言えません。子どもが意見を表明したことに対して、大人としてどのように考え、子どもにフィードバックするかが重要なのです。

そのため、この「報告会」という場を設けてフィードバックすること自体が、子どもの意見表明権をまさに尊重した取り組みであることを実感していただきたいのです。

報告会の取り組みの中で、居場所の増設はすぐにできなかったけど、そのことについて大人としてどのように考えたのか、をキチンと子どもにフィードバックする機会をこの度設けたことがとても素晴らしいことなのです。

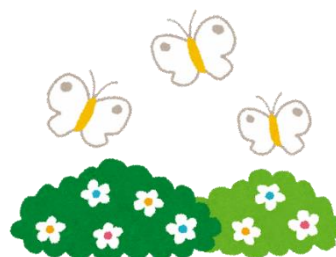
この報告会の取り組みはぜひ続けていただきたく、また、これこそが子どもの意見表明権を尊重した行政の取り組みの最善であることをアピールしていただきたいと思います。

○豊島区子どもの権利委員会とは・・・

豊島区は、子どもの権利に関する条例に基づく計画及び施策を検証するために、豊島区子どもの権利委員会を設置しています。

権利委員会は、大学の先生や区立学校の校長先生、地域の方など10名以内で組織されています。

権利委員会では、区長が意見を聞きたいことについて、子どもの権利保障の状況等を調べて評価し、意見をまとめて区長に回答しています。



～「令和 5 年度としま子ども会議を終えて」 としま子ども会議事務局 子ども若者課 ～

○運営・スケジュール等について

各課で課題となっていることや、子どもたちの意見をぜひ参考にしたいことをテーマにすることで、子どもの意見を区政に反映しやすくなった反面、テーマが抽象的だと各課の課題が子どもたちに伝わりづらく、実際の子どもの提案が、各課が想定していたことから離れてしまい実現が難しくなることも少なからずありました。子どもたちのイメージがふくらみ、提案しやすくなるよう、テーマの設定についてはより工夫する必要があります。

また、実施スケジュールについても、今年度は 7・8 月の夏休み期間に集中して実施することで、子どもたちの集中力を高めるとともに、子どもたちの意見について年度内に検討・実施することが可能になりました。参加者からは参加しやすいとの声を多くいただきましたが、中学生からは塾や部活動と重なり参加が難しかったとのご意見もありました。中学生の参加者が少ないことが毎年の課題であり、中学生にとっても参加しやすいスケジュールでの実施が今後の課題であるため、子どもに意見をもらいながら、より多くの子どもたちにとって参加しやすい形を検討していきたいと思えます。

○意見発表会について

意見発表会では、これまでに引き続き、子どもたち一人一人に各テーマの課題に対する提案を発表してもらいました。子どもたちは、各回の活動の中で、実際に自分が困っていることや日々考えていることから提案内容を考えていますが、意見発表会では具体的な提案内容を強調した発表となったため、各課が実現が難しいと感じてしまう発表も多くありました。来年度以降は「なぜそう思ったか」「どんなことに困っているのか」の部分に焦点を当てた発表にすることで、子どもたち一人一人の考えにより一層寄り添い、子どもの意見の反映に努めます。

○報告会について

報告会前の「事前ワーク」では、全体ファシリテーターの幅野氏や、各チームの職員ファシリテーターと共に資料を確認しながら発表内容を考える時間をとることで、予め区の報告内容について理解したうえで、報告会に臨んでもらえるようサポートしました。

課題としては、子どもたちの提案に対する区の報告・回答が、子どもが納得できるものではなかったり、疑問やもやもやを感じていても緊張のため発言することが難しかったことが挙げられます。また、「子どもたちが発表する時間がもう少し長くてもよかった。」「他のチームにも質疑応答ができたらよかった。」といった感想もいただきました。区からの報告の仕方や、報告会で子どもが発表する時のサポート体制の強化、当日の時間配分等について検討していきます。

としま子ども会議に参加してくださった子どもの皆さん、豊島区の課題について真剣に向き合い、自らの経験をもとに様々な提案を発表していただきありがとうございました。これからも豊島区では、子どもが意見を発表する場の確保や、子どもの意見の区政への反映など、子どもの権利保障の推進に努めてまいります。